にいがたの花　アザレア

■アザレアとは？

ツツジ科ツツジ属のヤマツツジの仲間で、大輪八重咲きが多い豪華な花容で、鉢植えで栽培されるツツジをアザレアと呼びます。

日本を中心とするツツジの野生種や江戸時代につくられた園芸品種が江戸時代末期から明治時代にヨーロッパに渡り、鉢植え用で、冬に咲かせられるように改良されました。日本には明治25年頃に渡来し、当時は西洋ツツジや洋種ツツジとも呼ばれていました。

キシツツジ　白琉球　大紫　マダム・モーリュー　マダム・R・ド・スメット

（野生種）　⇒　（江戸時代の園芸品種）　⇒　（アザレア）

■生産量は日本一！全国の80～90%のアザレアを生産

新潟県は、昭和初期から現在まで日本一のアザレアの生産地です。

アザレアは本県に明治40年頃に導入され、さし木による繁殖技術、また用土の改良によって、昭和初期には日本一の生産地にまで発展しました。

現在は新潟市秋葉区、南区を中心に生産され、新潟県花き出荷組合の売り上げで第一位、全体の17.3%を占めています。全国の8～9割のアザレアが新潟県内で生産されています。

■新潟でのアザレア栽培

明治期　日本へ移入されたアザレア

アザレアは明治32～35年に横浜植木㈱がアザレア10種を輸入したのが本格的な普及の契機となったようです。しかし、輸入されたアザレアは、栽培方法が分からず害虫被害のため一般に普及しませんでした。

大正期　新潟で成功したアザレア栽培

アザレアが新潟に移入されたのは、明治40年頃とされます。

大正12～13年に長尾庄三郎が、田土と泥炭（ピート）や籾殻(もみがら)を混ぜた培養土を考案し、長期に渡る栽培が可能となりました。

昭和10年頃のアザレア温室
長尾草生園（新潟市）

昭和初期　本格的な栽培がはじまる

昭和4年に「王冠」と名づけられた‘アルバートエリザベス’が輸入され、アザレアブームの火付け役となりました。根が出はじめたばかりのさし木苗が10円(現在の価値で約2万円）と非常に高価でした。新潟市を中心に県内で徐々に生産量が増え、全国一の生産地へと発展しました。

第二次世界大戦前後　衰退から回復へ

戦時中はアザレアも親木のみを残して、廃棄されてしまいました。しかし、昭和25年頃からアザレア生産は徐々に増加し、30年には全国の花鉢物問屋に大量の苗を供給するまでに回復しました。

大鉢のアザレア昭和30年代
長井至孝園（新潟市）

昭和から平成　日本の生産拠点・新品種の育成

アザレアも昭和40年頃からは安価となり、昭和50年代後半には薬剤を使ってつぼみを付け、さらに冷蔵処理をする方法によって、秋に開花させることが可能となりました。

昭和37年ごろに木口一二三氏（新潟市）によって‘春の夢’や‘紅葉衣’が作出されました。現在販売されている県内産の新品種として、新潟県農業総合研究所園芸研究センターが開発した‘越の淡雪’や‘ダンシングスノー’、新潟市の本間正信さんの‘ロマンスパール’、‘クリスタルパール’や‘紅姉妹’などがあります。日本一の生産量と共に優れた園芸品種が生み出されています。

■新潟県立植物園のアザレアコレクションは日本一

新潟県立植物園は、本県の園芸産業の基幹をなすアザレアの品種保存と今後の新品種の育成に貢献することを目的に、アザレアの収集を進め、現在、日本一の200品種以上1,500鉢を保存、栽培しています。

県立植物園ホームページ　https://botanical.greenery-niigata.or.jp

アザレア解説動画

アザレアとは　アザレアの誕生　アザレアと新潟県